

名所巡り 障害者に優しく

20年東京五輪・パラへ

ツアー商品や観光マップ

2020年の東京五輪・パラリンピックに向け、障害者をターゲットにした旅行商品の開発や、障害者用トイレの場所、道の傾斜を表示した観光マップの作成など、観光面でのバリアフリーに力を入れる動きが、都内で広がっている。

外国人観光客でにぎわう台東区の浅草寺。その中を先月16日、リオパラリンピックの車いす陸上女子代表の中山和美選手(33)が、ガイドの話に耳を傾けながら散策していた。

この日は、荒川区の旅行会社「トリップデザイナー」が開発した、車いす利用者向けツアーにゲストで参

加。浅草文化観光センターをスタートし、雷門、仲見世通り、浅草寺と巡った後、隅田公園から東京スカイツリーを眺めた。

初めて浅草を観光したという中山選手は「浅草寺は思ったより段差が少なくて面白かった。パラリンピックの時には、海外の選手たちを案内したい」と声を弾ませていた。

ツアーには、重度訪問介護従業者の資格を持った通訳案内士が同行。コースは電動車いすに乗る力ナダ出身の男性が監修するなど、海外からの障害者もターゲットにしており、同社の坂元壮社長(34)は「今後もツアーを拡大していきたい」と意欲を見せた。

障害者や高齢者向けの観光マップを作る動きもある。

都は昨年3月、浅草や新宿、高尾山など人気観光スポット10か所を取り上げた「東京観光バリアフリー情

報ガイド」を作った。観光施設の情報に加え、障害者用トイレやエレベーターの有無、道の傾斜、おすすめの道順も表示。「東京タワー入口付近は急勾配のため手動車いすには介助者が必要」など注意点も記載している。

千代田区ではNPO法人「リーブ・ウィズ・ドリーム」が区内のバリアフリー情報をまとめた地図を作成。区内の駅や公共施設周辺を載せた「地域マップ」、

皇居や靖国神社など観光地周辺を載せた「観光マップ」があり、約8年かけて、区内全域を網羅した。金子久美子理事長は「今後は、介助者の視点も取り入れたマップも作りたい」と話した。

JTB総合研究所の立花一成主任研究員は「都心部でハード面は整ってきたが、エレベーターの場所や障害者用トイレの設備など不便な例もある」と指摘し、「東京パラリンピックに向け、都民が障害のある方をサポートしたり、設備の情報をわかりやすくしたりするなどソフト面の充実は欠かせない」と話している。



車いすに乗って浅草観光を体験する中山選手(中央)(台東区で)

2017年(平成29年)3月17日(金曜日)

読 者 楽 園